

能動的なプログラム活動を期待する

「ベンチャー隊この1年を振り返って」

京都38団ベンチャー隊 働長 末吉 央伯

昨年12月18日に室町小学校で、京都連盟の富士スカウト・プロジェクト発表会が行われ、我が団から八木克彦君が発表して、最優秀賞を得た、その際アトラクションタイムとして要請を受け、昨年実施の米国ユタ研修旅行のDVD放映と、簡単な説明を小生が行った。各隊の皆さんからは、いろいろ質問もうけ、自分たちもやってみたいなどの声も多く聞かれた。このことは、サンバチ内部でも見られたようである。後輩たちの中で、VSへの上進を迷っていたスカウトもあれを見て、VSをやりたいとの動機づけとなったことは、DVDの作成が思わぬ成果をあげたようで、喜んでいる。

さて2006年度は新入隊員がなく、ローバー上進者による6名減で10名のスタートで始まったベンチャー隊。さらに休隊希望者がでて、久しぶりに一桁台の規模となってしまった。

定例隊集会も毎回人数が少なく寂しい限りである。参加スカウトは何らかの話しを持つてはいるのでそれなりに集会として成立しているようではあるが、ただスカウト自身が受け身の様相は否めない。アクションに乏しいのが気に掛かる。そのなかでも、島村悠吾君が宗教章の申請まで出来たことを喜んでいる。

11月3日から5日にかけて、名古屋75団のVS隊のスカウトが、プロジェクト活動で京都を訪ねてきた。スカウト4名とリーダー1名がドームテントを張る場所を求めてきたので、VSL宅の場所を提供した。彼らは高校1年生の4名。「東海地震における社寺の防災対策」というプロジェクトで、こちらが紹介した、下鴨神社（京都81団）北野天満宮（京都85団）では防災対策・防災設備を調査ができたようである。隊長さんの坂口さんは、背が高くガッチリとした体格なので、職業を尋ねたら、海上保安庁勤務とのこと。過日NHKの「プロフェッショナル」という番組で放映された海難救助特殊部隊、通称「海猿」の隊長で出演されていた方は、後輩だそうです。スカウトたちも行動はスマートで、どちらかといえばおとなしいタイプ。名古屋75団のVS隊の様子を伺っていますと、当隊とよく似たムードを持っていると感じた。

10月22日に予定していたカワセミハイクは参加予定者が少ないと、支援体制がそれないこともあって実施を断念した。それにしても、こんな活動などをやろうとか、ここにいってみたい。という能動的な機運に乏しい。おもしろそうなら、いこか。連れてもらえるのなら、いこか。ではVS活動としては不十分と思う。名古屋75団のVS隊の様子も、少しそんな様子を感じた。米国研修ツアーでもそんな感覚なら準備する側はごめんだ。

ただ、12月に実施するバラシュートハイクについては、積極的なアクションを感じることが出来るのが、せめてもの救いだ。それは、自分たち先輩スカウトがしなければならないという使命感がプログラムに存在するからなのではないかと思う。これは大事なことである。あーあまたか。と思うとそれまでだ。

び。